

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人 青峯会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-324
自己評価作成日	平成28年7月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の各担当者が毎月、家族さんに近況報告の手紙を送り信頼関係に繋げている。 ・中庭の整備で利用者は日々の生活で活動的に戸外に出て趣味や気分転換が出来るようになった。 ・食べたい食事を聞き、出来るだけ希望の献立を提供する機会を作っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>前回の外部評価後から外出する機会を増やす取り組みをすすめている。今春からは、行事担当職員が計画を立て、職員の勤務を調整して支援に取り組んでいる。職員の意見、提案で、今年3月に中庭を改修し、スロープを設置した。野菜の世話をしたり、テーブルを出して昼食やおやつを食べたりして楽しんでいる。散歩する方もいる。</p> <p>毎月の事業所便りのほかに、担当職員が利用者の日々の様子を手紙で伝えている。前回の外部評価後から、運営推進会議議事録と家族からの要望に沿って献立表も送付している。年1回行っている家族会は、家族と職員との交流を目的として行っている。</p> <p>災害避難時には、利用者の身元が分かるようにカードを作っている。カードは身に付けることになっており、表に事業所名と連絡先、裏には利用者の氏名を記載している。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)

氏名 篠原 初美

評価完了日 28年 7月 22日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を掲げ、その理念を実践をしているが十分な触れ合いは行えているとは言えないがスタッフ全員で気をつけて取り組んでいる。	
			(外部評価) 「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切に、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」という理念を玄関に掲げており、スタッフ会では、地域や家族との関係作りの取り組みについて話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議などで民生委員さんや地区の方々より情報を得て行事に参加をしている。	
			(外部評価) 回覧板を利用者と一緒に回しており、地域の方とあいさつしたりおしゃべりしたりして顔なじみになっている。運営推進会議に参加してくれていた元区長の方が、季節の花を定期的に届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ホーム内での活動が主で、その方法などを地域に向けては発信は出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その都度、活動やホームでのサービス内容を報告して意見を頂きサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、利用者や家族、民生委員や区長、日赤奉仕団の方等の参加がある。参加者にボランティアを紹介してもらったり、そのボランティアの方が他ボランティアを紹介してくれることもある。事故・ヒヤリハット報告を行い状況説明をしたり、実際に設置した「人感センサー」を見てもらったりした。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム連絡会議での情報交換を行い質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市内のグループホームが集まり、年4回、「地域密着型介護サービス連絡会議」を開催し、情報交換を行っている。テーマによっては、市の担当者が講師への依頼をしてくれることがある。介護相談員を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>勉強会に参加したり拘束をしない取り組みを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月、事故やヒヤリ・ハットの傾向を探りながら、事故防止策について職員間で話し合っている。一人で外出する利用者には、職員がそっと見守り付き添って対応している。転倒を繰り返す利用者には、人感センサーを使用しながら支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待対応の勉強会を実施し今年度中に職員全員が参加することになっている。また日々のケアでは言葉の虐待などにもスタッフ同士が確認しながら注意を払っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 自施設では青年後見人制度を利用されている方はいない。今後そのような状況になれば適切な対応が出来るように対策していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は家族さんと接する大切な時間とし、心配事や不安な事はないか再度確認して施設に入所して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議などで民生委員さんや地区役員さん、市の職員さん達を含め家族さんには毎回案内している。面会時には利用者さんの近況報告をし要望や意見などを汲み取りながら対応させて頂いている。 (外部評価) 毎月の事業所便りのほかに、担当職員が利用者の日々の様子を手紙で伝えている。前回の外部評価後から、運営推進会議議事録と家族からの要望に沿って献立表も送付している。年1回行っている家族会は、家族と職員との交流を目的として行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			常にアンテナを張って職員の状態の把握に努めている。ちょっとした職員からの言葉にも耳を傾けじっくりと話し合いをしているが全てが叶えられるものではなくプラス思考に反映できていない場合もあるかもしれない。	
			(外部評価)	
			日々、管理者と職員は、意見や提案を出し合い、話し合いながら取り組みをすすめている。職員から出た要望は、管理者が法人に伝える仕組みがある。管理者は、法人からの返答を職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に2回の人事考課が実施されている。各自の目標に取り組んでいる姿は観察でき、自己評価にも反映されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修案内は職員に周知している。法人内の研修も増え職員全員が1回は参加できるように調整している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム連絡会議で情報交換を行い質の向上に努めている。また法人内の高齢者支援課会議や接遇、安全委員会などで訪問ラウンドしたり勉強会の機会をつくっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前の面接では要望や意見などを伺いケアプランに盛り込んでいる。入居後も利用者に耳を傾け心配、不安など少しでも解消できるように寄り添いながら努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族から要望や意見などを伺いケアプランに盛り込んでおり家族との関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス計画を作成した段階で本人と家族が必要な支援を聞きその上で必要なサービス利用も含めた対応にも努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 暮らしを共にする関係を築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時などには居室で過ごして頂き、家族の絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方々の面会に来られた際には居室などでゆっくりと過ごして頂いたりしているが、馴染みの方々の関係維持は入所すると非常に難しい所ではある。	
			(外部評価) 入居前から参加している集まりに、入居後は、仲間の送迎で参加している利用者のケースがある。職員は、仲間の方に本人の体調等を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立する方がいないように、職員が関わり方もそれぞれ工夫をして支えあえるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了したらほとんどのご家族とは連絡が途絶えてしまうことが多い。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いに耳を傾け希望に添うように努めている。困難な場合は本人の様子から汲み取りスタッフ会などで検討している。	
			(外部評価) おやつや飲み物等を本人が選べるよう支援している。調査訪問時には、利用者に見たいテレビ番組を聞いて点けていた。家族からの情報は日々の記録に色を変えて記入しており、職員間で情報を共有している。事業所は、言葉だけでは把握できない利用者の思いを支援につなげることの難しさを感じていた。	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人からも聞いてみてはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や本人から暮らしの情報を聞き取っており把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 記録や申し送り、スタッフ会などでその日の状態を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族、本人の意向を取り入れ反映し課題が出来ればその都度取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族来訪時や電話で要望や意見を聞き取っているが、「お任せします」という方がほとんどのようだ。毎月のスタッフ会時にカンファレンスを行い、利用者個々のケアについて話し合っている。モニタリングは利用者の担当職員が行っている。</p>	<p>介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげていってほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録を行い特変時には全体の日誌に記入をして情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人やご家族の望むニーズを汲み取ったり可能な限り支援できるように取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職場見学や相談員の受け入れを行ってはいるが、その他地域との密接な関わりは行えてはいない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的な往診や特変時などには、直ぐに報告を行い対応をしている。	
			(外部評価) 病院受診は、家族が支援しているが、家族の都合によっては、介護タクシーを手配し、受診できるよう支援している。主治医から、検査や他の病院受診を勧められた場合には、家族の都合の良い日を聞き、受診支援をお願いしている。調査訪問時、昼食後には利用者の横で職員2名が薬の確認を行ってから、服薬支援を行っていた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の訪問時に気になることを報告・相談をしたり看護師からのアドバイスも頂いている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院への入院が多いが入院時の情報交換を行い相談を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) そのケースごとに家族や医師などと相談を行っている。	
			(外部評価) 入居時に、看取りについての指針を説明している。家族は「まだまだ先の事」と考えている方がほとんどのようだ。中には、「ここで見てくれるの？」と質問する家族もある。今後は、家族と緊急時の対応について延命治療の希望等、具体的に話し合う機会を持ちたいと考えていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	職員一同、処置の方法やバイタルの測定方法及び急変時の報告も行えている。 また、職員同士の意見交換も行えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	施設内での訓練を行っている。 職員同士で色々な状況を検討して話し合いを行っている。	
			(外部評価)		
			年2回、消防署の協力を得て、夜間災害や津波想定 of 避難訓練を行っている。消防署の方からは、具体的な対応法や、備蓄品についてアドバイスがある。災害避難時には、利用者の身元が分かるようにカードを作っている。カードは身に付けることになっており、表に事業所名と連絡先、裏には利用者の氏名を記載している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	一人ひとりのプライバシーの保護を心がけている。 それぞれにあった対応をしている。	
			(外部評価)		
			法人主催の「接遇委員会」には担当職員が参加しており、スタッフ会時に内容を報告している。管理者は、「外部から来られた方が不快に感じる言葉遣いをしないように」と職員に話している。排泄の声かけは、利用者の耳元で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	日常の会話などから聞けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) すべての希望に添えてはいないかもしれないが、出来るだけ希望に添えるように支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣するときなどには声をかけているし、汚れた際などにはすぐ更衣をして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 楽しんで頂けるように、その方にあった食種や形態などを心がけている。日常の会話などからヒントを得て参考になっている。できる方には調理や片付けなども一緒に行っている。 (外部評価) 法人で作成した1年分の献立表を活用している。利用者からメニューの要望が出ると、献立を変更している。利用者の誕生日には、好みのものを献立に採り入れている。ミキサー食の利用者には、すべてミキサーにするのではなく、刻みやとろみで摂取できるものを把握して食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分補給など声をかけながら大切だということを説明しながら確保できるように支援している。 水分については不足気味だと思う方もおられる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) それぞれ声かけをしてはいるが、声かけただけで拒否される方もおられるので難しいこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の訴えを優先してトイレでの排泄を行っている。トイレの訴えの無い方は時間を見て誘導を行っている。	
			(外部評価) トイレの入り口には大きく「便所」と書いた紙を貼り、場所が確認できるようにしている。排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かすることで、パッドサイズを小さめに変更できたようなケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体操、水分補給時に牛乳・ポカリ・コーヒーなどを提供している。食事の際にもヨーグルトやバナナなど便通に良いとされる物を提供している。また、便秘の方は主治医と相談をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の勤務にも影響はされるが、2～3日の1度の間隔で入浴を支援している。拒否のある方には、対応するスタッフを変えたり時間を空けたりして声かけをしている。	
			(外部評価) 車いすを使用する方が多く、現在、ほとんどの方が併設デイサービスのリフト浴を利用している。浴槽で納得いくまで温まれるよう支援しており、長湯の方には、時間を見計らって声をかけている。シャンプー・ボディソープは、家族が用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の自由にできるような支援をしている。ソファでくつろいだり、テレビを見たり、自室で休んだりされている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更などがあれば介護記録などに記録をし周知をしている。また、薬情ファイルいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者それぞれにあわせて無理の無いように作業を行っている。一緒に作業をすることでコミュニケーションもとれていると思う。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 可能であればドライブ、買物などに出かけるように心がけている。家族と出かける事は難しくあまりない。 (外部評価) 前回の外部評価後から外出する機会を増やす取り組みをすすめている。今春からは、行事担当職員が計画を立て、職員の勤務を調整して支援に取り組んでいる。職員の意見、提案で、今年3月に中庭を改修し、スロープを設置した。野菜の世話をしたり、テーブルを出して昼食やおやつを食べたりして楽しんでいる。散歩する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方はお金の管理はされていない。必要な物についてはご家族に連絡をして持参してもらったり、了解を経て購入をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族などに連絡を取りたい方は公衆電話などを使用している。また、手紙を書かれたら郵送するなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			中庭をきれいにしたので外に出やすくなっている。春には中庭でお花見などを行った。	
			(外部評価)	
			季節の童謡の歌詞を大きな字で書いて壁に貼り、毎朝、歌詞を見ながら歌を歌っている。又、塗絵作品を飾っていた。調査訪問時、テーブルで熱心に塗り絵に取り組んでいる利用者の様子が見られた。昼食後は、テレビの前のソファに座り、高校野球を観戦していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テレビの前にソファを置いて自宅のリビングのように過ごせるようにしている。 廊下にも休憩できるようにソファを置き、中庭を見れるようにしている。	
			(外部評価)	
			ダンスやベッドが備え付けられている為、限られたスペースでテレビや冷蔵庫などを持ってきている方もおられる。居室はその方が使いやすいようにしていただいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			カレンダーを毎月手作りして貼っている。家族に見せるためにカレンダーに来訪者を記録している方がいた。椅子に座り、テレビを見たり、ラジオを聞いたりして過ごす方がいる。冷蔵庫に飲み物を入れて室内で楽しむ方がいる。	
			(外部評価)	
			利用者が安全・安心して生活できるように出来る限りの工夫を務めている。ダンスなどは入り口付近に置かないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	